内水ハザードマップＱ＆Ａ

Ｑ１　内水ハザードマップと洪水ハザードマップの違いは？
Ｑ２　内水氾濫（はんらん）が発生したときは、避難（ひなん）場所へ避難すべきですか？
Ｑ３　自分の家が浸水の想定範囲外でしたが、安全ですか？
Ｑ４　近年、都市型水害と呼ばれる災害が増えているようですが、どうしてですか？
Ｑ５　内水ハザードマップの１時間当たりの雨量（71 ミリ、105 ミリ、153 ミリ）は、どういう雨ですか？

Ｑ１　内水ハザードマップと洪水ハザードマップの違いは？

Ａ１　洪水ハザードマップは、梅雨前線や台風など長時間続く大雨により、江戸川などの堤防の決壊（けっかい）や江戸川などから外水が溢（あふ）れて引き起こされる浸水区域を想定しているものです。（外水氾濫）

一方、内水ハザードマップでは、局地的大雨いわゆるゲリラ豪雨などにより、急激に雨水が雨水管や河川などに集まるため排水が追い付かず、内水が地表に溢れて引き起こされる浸水区域を想定しているものです。（内水氾濫）

Ｑ２　内水氾濫が発生したときは、避難場所へ避難すべきですか？

Ａ２　内水氾濫が発生したときには、むやみに外へ避難するのは危険です。まずは、ご自宅の２階（垂直避難）や近くの安全な建物へ避難してください。地下室や地下駐車場など地表よりも低い場所にいる時は、速やかに高い場所へ移動してください。

やむを得ず屋外へ避難する場合は、内水ハザードマップの情報面を参考に、避難してください。避難場所でも浸水が想定される場所もあります。

Ｑ３　自分の家が浸水の想定範囲外でしたが、安全ですか？

Ａ３　内水ハザードマップは、あくまでも想定であり目安です。

内水ハザードマップ作成にあたり、香取地域気象観測所で実際に観測された関東最大規模の雨（１時間あたり１５３ミリメートル）を本市に降らせた時に、どのような浸水が想定されるのか、地形などの状況や過去の浸水実績を元に、浸水シミュレーションを実施しましたが、同じ雨（１時間あたり１５３ミリメートル）で、どのように雨が降るのか（集中的か、または、なだらかに均一的に降るのか）によって、内水ハザードマップ上の浸水深よりも深く浸水する場合や内水ハザードマップ上で着色の無い浸水想定範囲外の場所でも浸水する場合が十分に考えられます。なお、ゴミや落ち葉などで道路の側溝（そっこう）や水路が詰まって浸水する場合もありますが、浸水シミュレーションでは考慮していません。

また、地下室、地下駐車場など地表よりも低い場所は、浸水の程度に関わらず雨水が入り込む危険があります。

Ｑ４　近年、都市型水害と呼ばれる災害が増えているようですが、どうしてですか？

Ａ４　「都市型水害」とは、一般的に都市化に伴って起きる水害のことで、近年、全国的に頻発（ひんぱつ）しており、問題となっています。その主な原因としては、次の２点が挙げられます。

（１）都市化により田や畑が減少し、地表の大部分がアスファルトやコンクリートなどに覆われたため（保水・遊水（ほすい・ゆうすい）機能の低下）

（２）ヒートアイランド現象や地球温暖化が原因とされる局地的大雨いわゆるゲリラ豪雨（ごうう）の増加のため

特に、（２）については、近年、雨水管や河川などの排水できる量を超える雨が多発傾向にあり、急激に大量の雨が雨水管や河川などに流れ込むため、内水氾濫が生じやすくなっています。

Ｑ５　内水ハザードマップの１時間当たりの雨量(71 ミリ、105 ミリ、153 ミリ)はどういう雨ですか？

Ａ５　それぞれの降雨は、下表の場所で観測されたものです。

１時間当たり降雨規模	内　容	観　測
７１ミリ	既往最大降雨	千葉特別地域気象観測所での観測史上 （５２年間）１位の雨量 １９７５年１０月５日降雨 ★ 確率として松戸市で３０年に１度相当の雨です。
１０５ミリ	他地域(近隣市)での大規模な降雨	我孫子地域気象観測所での観測史上 （４２年間）１位の雨量 ２００８年8月３０日降雨
１５３ミリ	想定最大規模降雨	関東地域の最大規模 （香取地域気象観測所で観測） １９９９年１０月２７日降雨